

令和4年度厚生労働科学研究費補助金（女性の健康の包括的支援政策研究事業）

（分担）研究報告書

ユネスコ国際セクシュアリティガイダンスに基づく包括的性教育プログラムの作成

研究分担者 西岡 笑子 順天堂大学保健看護学部看護学科母性看護学領域 教授
高橋 幸子 埼玉医科大学 医療人育成支援センター・地域医学推進センター 助教

研究要旨

国際連合教育科学文化機関（UNESCO）が定める「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」（以下「ガイダンス」）は、若者のリプロダクティブヘルスの増進を目的として、教育および保健当局や関連機関が包括的性教育のためのプログラムや教材を開発し、実践することを支援するための手引書である。このガイダンスは、世界各国のセクシュアリティ教育に関わる専門家の研究と実践を踏まえ作成され、性教育の世界のスタンダードともいわれている。本研究の目的は、ガイダンスに基づいた教材作成にあたり、多くの意見を反映したものとするための情報収集である。ガイダンスは先進国から発展途上国まで幅広くカバーするために、日本の現状にそぐわない部分も多々あるため、日本の性教育にガイダンスを反映するには慎重な検討が必要であり、多くの意見を反映したものとする必要がある。

本研究の目的は、作成したまなブックを使用し、日本においてガイダンスに基づいた包括的性教育を実践し、その効果や今後の課題について明らかにすることである。今回は、第一段階として、私立中高一貫女子校 中学1年生に対して行った。当該中学保健体育科の教諭が作成した指導案をもとに保健体育の授業において、まなブックレベル2の教材を用いて授業を行った。その結果、独自に作成した知識得点は、授業前と授業後、授業後と授業終了後2か月後、授業前と授業終了後2か月後のいずれの時点においても、有意に得点が上昇していた。CCHL得点は、授業前と授業後、授業前と授業終了後2か月後の時点において、有意に得点が上昇していた。授業後と授業終了後2か月後では有意な得点の変化はみられなかった。RSES得点は、授業前と授業後、授業後と授業終了後2か月後、授業前と授業終了後2か月後のいずれの時点においても、平均値は上昇したが、有意な得点の変化はみられなかった。

まなブックを使用して授業を行った中学1年の授業を担当した保健体育科教諭5名に対し、グループインタビューを行った結果、教員の性差による異なる感想、中高一貫女子校で実施したことによる特殊性により一般化に限界があるものの、まなブックを使用したことにより、性のグラデーションを導入で取り入れる、二次性徴による心の変化について生徒とディスカッションを行う機会が得られており、まなブック使用前とは異なる授業展開も行われていた。レベル4については、保健体育教員の新しい知識が得られ、勉強になった、という意見が聞かれ、性教育を熱心に行っている一部の私立高校であれば、すくなく活用できると評価された一方で、性教育を深く扱っていない学校においては、うまく活用できない可能性も示唆された。今後、レベル4の使用にあたっては、手引書を作成する必要性について検討する必要がある。

今回、実証授業の対象となった中高一貫女子中学校の校是校訓が、こころの健康、からだの健康であった。そのため、作成したまなブックを使用し、日本においてガイダンスに基づいた包括的性教育を実践し、その効果や今後の課題について明らかにするという本研究の目的への理解が得られ、保健体育科の先生方の全面的な協力を得ることができた。

次年度は、レベル2.3について、公立小・中学校で実証授業を、引き続き私立中高一貫女子校でレベル3.4の教材を用いた実証授業を行う予定である。

研究協力者

黒山湖子 埼玉医科大学 研究補佐
高田望 順天堂大学 業務委託
今野 淳一 桐朋女子中学・高等学校 校長
吉川 陽大 桐朋女子中学・高等学校 保健体育
科教諭 他11名

A. 研究目的

国際連合教育科学文化機関（UNESCO）が定める「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」¹⁾（以下「ガイダンス」）は、性と生殖に関する健康（SRH）を含む、子ども、若者の健康と

ウェルビーイング（幸福）を目的として、教育および保健当局や関連機関が包括的性教育のためのプログラムや教材を開発し、実践することを支援するための手引書である。このガイダンスは、世界各国のセクシュアリティ教育に関わる専門家の研究と実践を踏まえ作成された。2009年に初版が出版され、2018年に改訂版が出版された。欧米諸国だけでなく、韓国、台湾、中国においてもガイダンスが参照されており、まさに性教育の世界のスタンダードともいえるだろう。「ガイダンス」の中心となる考え方の主題として、1. 人間関係、2. 価値・権利・文化・セクシュアリティ、3. ジェンダーの理解、4. 暴力と安全の確保、5. 健康と幸福のためのスキル、6. 人間のからだと発達、7. セクシュアリティと性的健康、8. 性と生殖に関する健康がある。2018年の改訂版では、持続可能な開発目標、（以下、SDGs）が改訂版の前提となっており、3. ジェンダーの理解、4. 暴力と安全の確保の主題が追加された。SDGsが示す新たな開発の枠組みの中にある17のゴールの中で、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツは特に、目標3（健康）および目標5（ジェンダー平等）に関連しているが、それぞれのゴールは2030年の世界像において関連し合っている。人間の生殖システムや性生活などは目標1（貧困）、2（栄養）、4（教育）などによって目指されている世界の一部であり、性・セクシュアリティだけが特別に存在することはできない。

「ガイダンス」では、対象を4つの年齢区分（レベル1：5～8歳、レベル2：9～12歳、レベル3：12～15歳、レベル4：15～18歳）に分け、学習内容と学習目標をそれぞれに設定し、発達段階に合わせて段階的に継続した教育を行っている。

その学習内容としては、性行動そのものだけではなく、人間関係（家族、友情、結婚など）や、価値観、文化、人権など、非常に多岐に渡り、その中身においても多様性が前提とされている。例えば、家族の項目では、レベル1では「家族にはさまざまな種類の家族が存在する」という内容から始まっている。

日本における女性の健康知識も含めた包括的性教育について、文部科学省による学習指導要領²⁾との比較を行った。その結果、国際基準より大きく遅れていることが明らかとなった³⁾。例えば、妊娠に関して、ガイダンスでは5-8歳（レベル1）の段階で、受精など子どもが生まれる過程を知り、意図しない妊娠、避妊方法については9-12歳（レベル2）で取り上げられていた。しかし、学習指導要領では双方ともに高

校で扱う内容と規定されていた。また、学習指導要領ではがんについての教育は記載されているものの、女性特有の乳がんや子宮頸がんについては焦点が当てられていなかった。ヒトパピローマウイルス感染、ワクチンに関しては、ガイダンスにおいて9-12歳（レベル2）で教育すべきとの記載がある一方で、学習指導要領には記載がなかった。

月経に関する教育も世界と大きな開きがあった。ガイダンスでは月経中に女性が快適に過ごすためのサポートが記載されていたが、学習指導要領では月経について小学校で紹介された後は月経の過ごし方に関する記述はなかった。さらに、婦人科等へのアクセスについて、ガイダンスでは詳細に記載されている一方、学習指導要領では中学校、高校のタイミングにおいて一般的な医療機関の利用に関する記述にとどまっており、婦人科等の利用についての特徴的な記載はなかった。

これらの結果から、今後日本においてガイダンスに基づいた包括的性教育を導入していくことが大切である。しかし、ガイダンスは先進国から発展途上国まで幅広くカバーしているために、日本の現状にそぐわない部分も多々あり、日本の性教育にガイダンスを反映する際には慎重な検討が必要である。そこで、申請者らは、令和3年度にガイダンスに基づいた教材作成にあたり、子どもの性教育に携わっている養護教諭、教員（クラス担任）、医療職（小児科医、産婦人科医、泌尿器科医）および保護者に個別インタビュー調査を行い、日本における性教育の現状と、教材案についての意見を反映し、日本の社会的背景、文化等を考慮した教材（まなブックレベル2.3.4、以下、まなブック）および指導案開発を行った。今後、まなブックレベル2（9-12歳）.3（12-15歳）.4（15-18歳）を用いた包括的性教育を日本で普及させていく予定である。

本研究の目的は、作成したまなブックを使用し、日本においてガイダンスに基づいた包括的性教育を実践し、その効果や今後の課題について明らかにすることである。今回は、第一段階として、私立中高一貫女子校 中学1年生に対して行うこととした。

B. 研究方法

1. 国際セクシュアリティ教育ガイダンスに基づく関連教材“まなブック”を用いた包括的性教育プログラム導入の効果と課題の検討～レベル2 私立中高一貫女子校での実践 第一段階としての試み～

1) 対象者：中高一貫女子校に在学する中学校1年生156名

2) 方法：研究分担者らが作成したまなブックレベル2(9-12歳向け)の教材を用い、作成したまなブックに基づき、桐朋女子中学・高等学校保健体育科教諭が指導案を作成した。指導案に基づき、中学校1年生の保健体育を7回実施する(45分間/回)。保健体育の授業前(1時間目、オリエンテーション時)、7時間目の授業後および授業終了後2か月後、計3回、Google Formによるweb調査を実施した。保健体育の授業は、生徒は義務として受けるが、研究に協力するか否かについては、生徒および保護者の自由意思で決めることができる。

3) 授業内容(タイトルのみ記載)

- ・1時間目：オリエンテーション(Google Formによるweb調査実施)
- ・2時間目：性のグラデーション、性同一性、性的指向、思春期の体の変化、心の変化、初経、精通、月経、射精
- ・3時間目：月経に関わるホルモン、女性の内性器、月経のメカニズム、PMS
- ・4時間目：月経中も気持ちよく過ごすコツ、様々な生理用品
- ・5時間目：男性器における身体の変化
- ・6.7時間目：受精・妊娠・出産

4) 調査内容

(1) 知識得点(25項目;25点満点)

- ①性同一性
- ②ジェンダー
- ③思春期の体の変化
- ④思春期の心の変化
- ⑤男性の二次性徴(精通)
- ⑥射精、精子数の年齢的变化
- ⑦射精
- ⑧射精
- ⑨初経
- ⑩月経周期
- ⑪正常な月経周期
- ⑫無月経
- ⑬PMS
- ⑭性的指向
- ⑮プライベートゾーン
- ⑯性被害に遭った場合の相談
- ⑰膣の常在菌
- ⑱月経と妊娠
- ⑲妊娠を避ける方法
- ⑳心地よい距離
- ㉑リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- ㉒性暴力

㉓妊娠と年齢

㉔生殖補助医療

㉕自然妊娠

・その他自由記載

①～㉕ 独自に作成した質問項目を用いる。

(2) 伝達的批判的ヘルスリテラシー尺度(Communicative and Critical Health Literacy;以下CCHL)(5項目;25点満点)

(3) Rosenberg自尊感情尺度日本語版(Rosenberg Self Esteem Scale;以下RSES)(10項目;40点満点)

5) 補足説明：今回の授業において、レベル2(9-12歳向け)の教材を中学1年生で使用するのは、先述の通り、日本の性教育が十分に行われていないためである。一例として、ガイドランスでは月経中に女性が快適に過ごすためのサポートが記載されていたが、学習指導要領では月経について生殖機能的な面で説明されるのみであり、月経により心身への影響や月経中の過ごし方に関する記述はない。今回、作成したまなブックではレベル2の教材において、月経中に快適に過ごすためのサポートについて記載し、授業でも取り扱う予定となっている。さらに、今回研究対象となった中学校に入学する生徒は、それぞれ異なる小学校からの入学生であり、小学校で受けてきた性の健康教育もばらつきがある。入学後、段階的に継続した包括的性教育を行っていくためには、その前提条件として、ガイドランスレベル2(9-12歳向け)の内容について、中学1年生時点で、丁寧に教育を行い、全ての生徒が同等の知識を習得しておく必要があるためである。

2. “まなブック”を用いた包括的性教育プログラム導入の効果と課題～教材を使用した保健体育教員へのインタビュー～

1) 対象者：中高一貫女子校に勤務し、中学校1年生を担当する保健体育教諭5名

2) 方法：分担研究者より本人に説明文書に基づき十分に説明を行った上で、本研究への参加について、文書にて同意を得た。インタビューガイドに基づく半構造化面接法によって行った。面接はグループインタビューとし、1回の面接時間は60分以内とした。面接は、ZOOMによるオンラインで実施し、対象者の承諾を得て音声録音した。

<インタビュー内容>

1) 年代、性別

2) 教員経験年数、現任校の学校での経験年数

3) 申請者および研究分担者らが作成したレベル2 (9-12歳向け) 一部レベル3 (12-15歳向け) の教材を用い、中学1年生の保健体育を7回実施 (45分間/回) 後の感想、使いやすさ、使いにくさ、実施して困ったこと、改善点など。

まなブックを使用した授業案を作成するうえで、困った点、良かった点、感じた点など。

4) 音声データの逐語録の作成を行い、逐語録の内容分析を行った。

本研究は、順天堂大学保健看護学部研究等倫理審査委員会の承認を得て実施した (承認番号: 順保第4-08号)。調査期間は令和4年10月~令和5年3月31日とした。

C. 研究結果

1. 国際セクシュアリティ教育ガイダンスに基づく関連教材“まなブック”を用いた包括的性教育プログラム導入の効果と課題の検討~レベル2 私立中高一貫女子校での実践 第一段階としての試み~

実証授業を行う学校の保健体育教員に、事前にまなブックを渡し、指導案を作成していただいた。その結果、中学1年生に対し、レベル2本冊を中心として、レベル2別冊、レベル3本冊も一部使用したい、との意向であった。レベル2は9~12歳向けであるため、意向に沿ってまなブックを配布することとした。

1) 分析対象者数

中学1年生女子生徒156名に対し、研究目的、方法を説明し、Google Formにて、生徒本人および保護者89名 (57.1%) の同意を得ることができた。①授業開始前アンケートに74名 (47.4%) が回答、②授業後アンケートに79名が回答 (50.6%)、③授業終了2か月後アンケートに64名 (41.0%) が回答した。①、②、③全てに回答した者は51名 (32.7%) であった。以降の分析は①、②、③全てに回答した51名を対象とし行った。

2) 分析結果

授業前、授業後、授業終了2か月後の得点推移を表に示す。独自に作成した知識得点は、授業前と授業後、授業後と授業終了後2か月後、授業前と授業終了後2か月後のいずれの時点においても、有意に得点が上昇していた。

CCHL 尺度得点は、授業前と授業後、授業前と授業終了後2か月後の時点において、有意に得点が上昇していた。授業後と授業終了後2か月後では有意な得点の変化はみられなかった。

RSES 尺度得点は、授業前と授業後、授業後と

授業終了後2か月後、授業前と授業終了後2か月後のいずれの時点においても、平均値は上昇したが、有意な得点の変化はみられなかった。

表. 授業前、授業後、授業終了2か月後の得点推移

(n=51)				
知識得点				
授業前	13.5±4.8	0.49	<0.001 ^a	} <0.001 ^b } 0.019 ^b } <0.001 ^b
授業後	19.0±3.7	0.78	<0.001 ^a	
授業終了2か月後	19.8±2.9	0.30	0.034 ^a	
CCHL				
授業前	17.7±2.8	0.40	0.006 ^a	} 0.042 ^b } n.s. ^b } 0.041 ^b
授業後	18.8±3.1	0.78	<0.001 ^a	
授業終了2か月後	18.6±3.6	0.53	<0.001 ^a	
RSES				
授業前	25.0±5.8	0.60	<0.001 ^a	} n.s. ^b } n.s. ^b } n.s. ^b
授業後	25.8±6.2	0.68	<0.001 ^a	
授業終了2か月後	26.0±7.0	0.58	0.034 ^a	

a: Pearsonの相関係数 b: 対応のあるt検定

3) 自由記載

(1) 授業前

- ・YouTubeとかでも性教育動画が多数アップされていますが、やっぱりちゃんとした先生とかがやってる動画が信用できるので、先生方の監修とか見やすい動画があるといいなっています。
- ・意外とわからないことがたくさんあって、びっくりした。
- ・性について、知っている人と知らない人に差が激しいと思う。

(2) 授業後

- ・まなブックを使ってとても分かりやすい授業を受けることができてとても楽しかったです。

2. “まなブック”を用いた包括的性教育プログラム導入の効果と課題~教材を使用した保健体育教員へのインタビュー~

合計5名であった。インタビュー時間は50分であった。

1) 教員の属性

- (1) 年代および性別 30代2名、40代2名、50代1名、男性3名、女性2名
- (2) 教員経験年数: 平均19.8年 (中央値20年; 11~29年)
- (3) 現任校の学校での経験年数: 平均17.2年 (中央値16年; 11~27年)

2) 研究分担者らが作成したレベル2 (9-12歳向け) 一部レベル3 (12-15歳向け) の教材を用い、中学1年生の保健体育を7回実施 (45分間/回) 後の感想、使いやすさ、使いにくさ、実施

して困ったこと、改善点など。

男性教員 A：まなブックを授業で使わせてもらって、非常にありがたかった。まなブックのレベル2、レベル2別冊、レベル3、を3冊配るという形になったので、授業中に机の上にいっぱいのるような形になってしまい、教室の机もそんなに大きくはないので、生徒も授業中に冊子を落としたりしていた。レベル2として今後、一冊になると良いのかなと思った。今までやってきた授業の中では、私の中で、これはやはり**男性教員が女子生徒に教える**というところでは、**すごく活用させてもらった。すごく助かった。**

女性教員 B：今回このまなブックを使って授業したが、もともと本校の中学1年生で触れていく内容からみると、**情報が少ない**というのが正直な感想で、私、個人としては、うまく活用できないで終わってしまったなという反省点がある。もう少し、**月経の仕組み、射精のこと、妊娠のこと、ホルモンのこと、そういう内容も**もり込まれているとやりやすかったという印象はある。

女性教員 C：レベル2は割と扱いやすく、話を前後させることなく、進められたと思うが、別冊とレベル3が参照しにくかった。**おそらく、本校での進度が影響していると思われる。レベル2に妊娠の仕組みがあると、流れが話しやすかった**と思う。(本校は)レベル2の話をした後に、スキンシップとかのことを飛ばして、妊娠の仕組みをやっているもので、妊娠の仕組みはもう少し詳しく情報があつたら良いと思った。月経の仕組みと射精の仕組みに関しては、まなブックを参照しつつ、付け足す形で授業を行った。A先生が言っていたようにこのレベル2一冊でいくなら、そこに妊娠の仕組みまでが入っていても良いのかなと思う。高一にこのレベル3とか性感染症の話をもっていくには、前半のポジティブイメージとか付き合うってどういうことというところだけだと、物足りないのかなと思う。レベル2は使いやすかった。

男性教員 D：C先生が仰ったように、これを教科書として使おうとすると、もう少し内容的に細かく詳しく載っていた方が、授業としての流れを追っていく上では、**すごくやりやすい**なと思った。ただ単に読み物として、見て、ただ知識を深めるということで考えるなら、これくらいでも良いかなと思うが、今までの流れを追いながら、今までの中一の授業を進めようとする、もうちょっと内容的に、もう少し詳しくして頂けると良いかなと思った。**月経の仕組み、**

男性の体の仕組みの後に妊娠の仕組みもあると、非常にやりやすいと思う。まなブックレベル3の中の流れとしては、**ボディイメージとか、付き合うってどういうこと、とか、性的同意ってことの先に性交渉があつて、そこで、妊娠という流れなのだろうな、と、そのあたりは理解できるので、その時々**に私の授業のなかで**使えるところを、ここ開いて**ということをしな**がら、授業では使えた**。中一で、性的同意について話すのが初めてであった。以前、高校2年生に性的同意を入れたことがあつた。お互いの付き合い方は、友達関係も含めて考えると、そういったことが、「プライベートゾーンに勝手に触ってはだめだよ」など、中学生はよくふざけあつてそういうことをしあうということもあると思うので、そういったところを教えるのには、それぞれ役に立つと思った。自分の中でもどのようにもっていけばよいかってところが、うまく整理できなかつたところもあるが、**教えづら**いところも載っていて、**読んでおいて、で済む部分もあり、助かった**。性交同意年齢も13歳から16歳へ引き上げられたこともあつて、そこまでは分からないだろうと思ったので、付き合うってどういうこととか、一度そうなつたからといって毎回そうではないよ、7ページ、8ページ、9ページ、10ページは私の別途プリントやビデオを見せたのですが、どこまで理解できるのかはわからないのですが、普通に子どもを作るためにすることと、あとは、それだけじゃない、人間には**快樂**というのがあつて、あとは、性暴力があるから、気を付けようという話をしたが、**実際どのように伝わっているかは不明**である。

男性教員 E：レベル2の9ページの生理用品のところは、私は詳しいことはわからないので、ここはかなり詳しく女性の先生に、一時間きってもらって、こういう風に代表的なものが書いてあるけど、もっと**沢山あつてね**という形で、詳しくやってもらつた。一時間私の授業に女性の先生が来て詳しくやってもらつた。あつ、こんなに**沢山の色々な種類がある**んだつたら、ここに載せた方が良かったかもしれないと思つた。(※ナプキンの夜用、スポーツ用等、ナプキンの種類、吸水ショーツ、タンポン、月経カップ、シンクロフィット、お産パッドの実物を提示)

あとは、私はレベル3の10ページの受精妊娠のところは、当初の通り、10ページのみレベル3は使つたので、その他のところではほとんど、**触れなかつた**ので、D先生はそんなに触れたんだと、驚いて聞いていた。

3) レベル3冊子の活用状況

男性教員A：二次性徴のところでは、配布はせずに、まだ、自分の手元におき、生命誕生の最後のところで、レベル3、10ページのところで妊娠の仕組みを使用し、あとは、自分の興味あるところを読んでねという形で使用した。

女性教員B：9ページと10ページを開いて、授業した。

女性教員C：メインは10ページを使用した。別冊の裏表紙と7ページにある、SOGIEの話をする時に参照した。

4) まなブックをみて、以前の授業と伝え方を変更した点があるかどうか、もしあるということであれば、どの部分か。

男性教員E：私は以前の授業であまり触れてなかったところとしては、1、2ページの、性はグラデーション、というこの辺りに触れてから授業に入れたので、個人的にはとてもすんなり入れたと思う。今までどうやって入っていたのかっていうと、身体つきが変わってきたよね、みたいな感じで、たぶん2ページの内容から、入ったので、1ページから、今回単元として性はグラデーション、いわゆる性について学ぶけど、っていうので、1ページ目のところのあたりは1回触れてから、自分たちの身体のことを考えてみてもとかっていう話で入ってきたので、ここは導入としてはとても入りやすかったと思う。

まなブックレベル2の4ページ、私達の学校の校是校訓が、こころの健康、からだの健康であり、学校が大事にしているスタンスなのですが、今まで心の健康の部分って、どちらかと言えば、精神保健っていう風にすぐ入ってしまっていたが、今回心の変化という、身体も変化するけれど心も変化するっていうので、では、どんな感じで思春期にもやもや加減があるのかなというのを、みんなでシェアするような時間を作った。去年まで全然やっていなかったの、今回はまなブックの4ページがあって、とても良かったなと思った。

男性教員A：私もE先生と同じく、レベル2の最初の性はグラデーションというところから、入った。今まで、そこは全然中一の保健で扱ってなかったの、確かに自分とは何ぞえ、他人とは何ぞえ、そういうところの話からしていき、じゃあ、身体の変化この時期、というところなので、E先生と同じ形だったのかなと思う。私は、基本的に教科書を中心に、毎回ノートに書かせるタイプなので、そういったところで、

書くことも、早く書き終わる人は、時間を持て余したりしていきますので、そういう合間に、ちょっと、まなブックの〇〇ページ読んでおいて、とか、教科書の〇〇ページ読んでおいてとか、そういう形であったので、今までより、空き時間の活用はしやすくなったかと思う。あと、レベル2の11ページのところのPMSのところは全然授業で触れていなかったの、そういうところも授業で話題にできたのは良かったのかなと思った。**女性教員B**：私はまなブックレベル2の3ページから、身体の変化のところ、二次性徴の身体の変化などについて、声変わりをする、体毛が濃くなること、きっちり男女で分けて、身体の変化を今までやっていたが、まなブックの3ページには共通の項目として、声変わりや毛が生えるという記載があったので、まなブックに合わせて授業をした。

女性教員C：B先生が言っていた、二次性徴の男女の変化を、男性は〇〇女性は〇〇と、分けて言っていたので、共通の事が多いというような、言い方を変えた。レベル3の妊娠の仕組みのところ、不妊治療の人数が今は13人に1人とかって書いてあって、確か、アンケートにも項目があったので、こういう具体的な新しい数字がわかるのは、とっても有難かった。おそらくクラスの中にも最近はいらぬと思うので、ここが書いてあったり、最近の数字である事が嬉しかった。

男性教員D：E先生が言っていた、性はグラデーションのところを触れて、これで1時間使ってしまった。あとは、身体の変化のところに関しても、共通のところ、B先生が仰っていましたが、こういうふうにしたのと、あとは、心の変化のところ、全く触れていなかったが、やはりあるなというところで、今回、触れた。あとはPMS症候群に関しましても、教科書にも載ってはいたんですけども、ここに明確に載っているということもあって、こういうことは普通にあるんだよと、あと、生理に関してE先生も言っていましたけど、私も、生理用品に関しては、女性の先生にお願いして、実物を見せながら、触りながら、どうかな？みたいな話をしてもらったのは、男性の自分にはできないことですが、とても新鮮だったと思います。あとは、レベル3の内容に触れたのは、自分でも大きかったと思う。

5) まなブックレベル4は先生方が授業を行うにあたり、新しい知見を得ることができたと思いますか？また、今後、レベル1~3を使用して授業を行う先生方への資料として、使用できると

思うか？レベル4は教員用の資料として使用できるかどうか？

男性教員E：レベル4の内容というのは、かなり高度なものなので、公立の先生方というは、「読んでおいて」で、終わってしまう可能性もあるかもしれないというのが、印象である。レベル2、レベル3ですら、公立の先生方にとってみると、適切に扱えるのかが心配である。レベル4の資料は全く扱えない教員もいるかもしれないという危惧がある。

男性教員A：ある都立高校の体育の先生から聞いた保健の授業は、教科書に書いてあることしかやらないということは言っていたので、まなブックレベル4は公立の先生は使うのかな、というところがある。結構私も知らない情報があったので、これは本当に性教育を熱心に行っている一部の私立高校であれば、すごく活用できるのかなというところがあるし、性教育を深く扱っていないところにとっていくと、ちょっと難しいのかなというのが率直な感想である。

女性教員B：私自身聞いたことのない、知識がなくて、知らなかった言葉とかがあるので、そういう意味ではとても勉強になるなという感じはしている。あとは、性暴力の被害にあった時期とか、加害者との関係とか、データのなものですかね、そういうものも、資料に載っているの、すごく扱いやすいかなという印象はある。

女性教員C：私は是非あったらいいなと思っていて、どこまで先生方が教えられるか、中学生にどこまで伝えるかは別として、国際セクシュアリティガイドランスの原本を読む時間や労力を考えると、このまなブックが、カラーでレベル4まで手元にあったら、18歳までにここまで知っていて欲しいという内容がかなりきゅっと詰まっているものなので、それが手元にあると、安心して授業が出来ると思っている。私立の方が自由なので、教えようと思うと何を扱ってもいいとなると、深いところだけ、深くなり、扱っていないところが出てきたり、徐々に出てきたりするので、ガイドランスとして教科書的なものがあつたら、レベル2を教える先生達にもレベル4はあったらいいと思っている。

男性教員D：レベル4はすごく詳しく載っていて、おもしろいと思った。やはりこれくらい情報量があつたりすると、色々ここから発展も出来るでしょうし、やはり生徒だけじゃなく、教員である自分も勉強になるなという感じがするので、おそらく学齢によっての知識量の差はあると思うが、非常に興味深く読ませて頂いた。うちの授業でやれるかとなると、うちの高校一年生の性教育の部分に入ってしまうところが多

いので、なかなか難しいとは思うのですが、まあ非常に良い冊子だと思った。

女性教員C：今回私たちは割と授業時間数を割いて、みっちり授業をしているのですが、おそらく、公立でそういう時間が割けないところでも、このまなブックを配るだけでも、生徒のみんなが目を通したり、ちょっと気になるときに授業でやっていなくても、自分で参照できるというのは、すごく、有意義だと思うので、是非公立にも全国の学校にも配られたら良いと思う。

6) Google Formでの同意書提出およびアンケート回答の問題点

男性教員E：Google Formでの同意書提出およびアンケート回答の問題点について、授業にタブレットを持ってきてくださいと事前にインフォメーションしたとしても、持参しない生徒がいたり、学校のWi-Fi環境があまり良くない、同時刻に複数クラスがインターネットを使用する活動になるとつながりにくくなったりしたので、中学校1年生がQRコードを読み込んで入力していくという作業は不慣れだったのだろうと思われる。紙の方が確実にデータを回収できたのではないかと思った。ただ、1回やれば、2回目、3回目のアンケートの実施は、1回目よりはスムーズにいったのかなというように思います。保護者の同意の取得に関して、何回も声掛けしたが、期日までに揃わないというところが、もどかしい思いをした。

D. 考察

1. 国際セクシュアリティ教育ガイドランスに基づく関連教材“まなブック”を用いた包括的性教育プログラム導入の効果と課題の検討～レベル2 私立中高一貫女子校での実践 第一段階としての試み～

1) 分析対象者数

中学1年生女子生徒156名に対し、研究目的、方法等を説明し、Google Formにて、生徒本人および保護者89名(57.1%)の同意を得ることができた。①授業開始前アンケート、②授業後アンケート、③授業終了2か月後アンケートの全てに回答した者は51名(32.7%)であった。Google Formでの同意書提出やアンケート回答について、生徒本人だけでなく、保護者の同意が得る必要があったこと、タブレットを持参しない、学校のWi-Fi環境の問題、QRコードを読み込んで入力していくという作業は中学1年生にとって不慣れであったことなどが回収率に影響を及ぼしたと考えられる。加えて、3回のアンケ

ートに全て回答した者のデータは更に脱落者が多いという結果となった。今後は、同意書を紙で配布、回収するなど、参加意思のある者が適切に参加できるよう、研究実施校と相談し、進めていく必要がある。義務教育の授業で実施する調査は、強制力が働きやすく、生徒の自由意思が尊重されない可能性が考えられたが、今回の回収率の低さは、研究依頼の際、研究参加、アンケートの回答の可否について、保健体育科の教員には知らされないこと、成績には一切関係がないこと、などを説明していたことから、強制力が働かず、生徒の自由意思により参加できたのではないかと考えられる。

2) 分析結果

独自に作成した知識得点は、授業前と授業後、授業後と授業終了後 2 か月後、授業前と授業終了後 2 か月後のいずれの時点においても、有意に得点が上昇していた。授業後だけでなく授業終了後 2 か月後においても、知識得点の低下がみられなかったことから、知識の定着が図られたことが示された。日本において、中学生を対象とした国際セクシュアリティ教育ガイダンスに基づいた包括的性教育の先行研究は見当たらなかった⁶⁾。また、日本では、性教育として様々な取り組みがなされているが、今回の研究デザインのように介入前後で対象者に調査を実施し、効果測定をしているものが少なく、性教育実施後のみの調査や感想などをまとめた実践報告が多い⁷⁾という現状がある。これは、学校が医師や助産師等に外部講師として、性教育を依頼する学校が多く⁸⁾、その効果を評価するまでに至っていないことが考えられる。今回の研究は、Eva ら⁶⁾のシステムティックレビューの対象となった研究のように、比較対照群を設けることができなかった。今年度、来年度と介入対象とならない学年を対照群として、調査のみを実施しているの、次年度は、それらのデータを対照群として、分析を行い、効果を検証する必要がある。

CCHL 尺度得点は、授業前と授業後、授業前と授業終了後 2 か月後の時点において、有意に得点が上昇していた。CCHL は、ヘルスリテラシーの一次予防の段階に位置し、情報検索、理解、評価、意思決定・行動、伝達・コミュニケーションの 5 つの能力を測っている⁹⁾。作成したまなブックには、これらの能力を上昇させる要素が含まれていたと考えられる。

一方で、RSES 尺度得点は、授業前と授業後、授業後と授業終了後 2 か月後、授業前と授業終了後 2 か月後のいずれの時点においても、有意

な得点の変化はみられなかった。風間ら¹⁰⁾の研究では、女子では授業直後に RSES 尺度が有意に上昇していたこと、包括的性教育を受けることにより、自尊感情が高まることを想定し、本尺度の測定を行ったが平均値はおよそ 1 点上昇していたものの、統計的に有意な上昇はみられなかった。

2. “まなブック”を用いた包括的性教育プログラム導入の効果と課題～教材を使用した保健体育教員へのインタビュー～

1) 教員の属性による異なる感想

今回、実証授業を担当したのは、男性教員 3 名、女性教員 2 名であった。男性教員からは、「私の中で、これはやはり**男性教員が女子生徒に教えるというところでは、すごく活用させてもらった。すごく助かった。**(男性 A 教員)」、「**レベル 2 の 9 ページの生理用品のところは、私は詳しいことはわからないので、ここはかなり詳しく女性の先生に、一時間きてもらって、こういう風に代表的なものが書いてあるけど、もっと沢山あってねという形で、詳しくやってもらった(男性 E 教員)。**」「**生理用品に関しては、女性の先生にお願いして、実物を見せながら、触りながら、どうかな？みたいな話をしてもらったのは、男性の自分にはできないことですが、とても新鮮だったと思います。(D 教員)**」といった感想が聞かれた。男性教員が女子生徒に教えるうえで、まなブックは活用しやすい教材であったこと、具体的な生理用品については、女性教員だからこそ女子学生に伝えられることもあるということが示された。

2) 研究分担者らが作成したレベル 2 (9-12 歳向け) 一部レベル 3 (12-15 歳向け) の教材を用い、中学 1 年生の保健体育を 7 回実施 (45 分間/回) 後の感想、使いやすさ、使いにくさ、実施して困ったこと、改善点など。

(1) 中高一貫女子校で実施したことによる特殊性

インタビュー内の「まなブックを使って授業したが、もともと本校の**中学 1 年生で触れていく内容からみると、情報が少ない**というのが正直な感想で (中略) **もう少し、月経の仕組み、射精のこと、妊娠のこと、ホルモンのこと、そういう内容ももり込まれているとやりやすかったという印象はある。**(B 教員)」、「**レベル 2 は割と扱いやすく、話を前後させることなく、進められたと思うが、別冊とレベル 3 が参**

照しにくかった。おそらく、本校での進度が影響していると思われる。レベル2に妊娠の仕組みがあると、流れが話しやすかったと思う。レベル2の話をした後に、(本校は)スキンシップとかのことを飛ばして、妊娠の仕組みをやっているもので、妊娠の仕組みはもう少し詳しく情報があつたら良いと思った。月経の仕組みと射精の仕組みに関しては、まなブックを参照しつつ、付け足す形で授業を行った。(C 教員)、「C先生が仰ったように、これを教科書として使おうとすると、もう少し内容的に細かく詳しく載っていた方が、授業としての流れを追っていく上では、すごくやりやすいなと思った。ただ単に読み物として、見て、ただ知識を深めるということでは、これくらいでも良いかなと思うが、今までの流れを追いながら、今までの中一の授業を進めようとする、もうちょっと内容的に、もう少し詳しくして頂けると良いかなと思った。月経の仕組み、男性の体の仕組みの後に妊娠の仕組みもあると、非常にやりやすいと思う。(D 教員)」、さらに、「(レベル2別冊、レベル3が)レベル2として今後、一冊になると良いのかなと思った。(A教員)」という意見も聞かれた。実証授業を行う前に、当該中学校1年生の保健体育の指導案を共有いただき、授業で扱っている内容を確認したところ、レベル2だけでなく、レベル2別冊、レベル3に渡っていたため、冊子を3冊配布するという形となった。これらの発言から、今回、実証授業の対象となった学校は、中高一貫女子校であるということで、学習指導要領⁴⁾に記載していること以上の内容を、以前より扱っていることが伺えた。今回のインタビューで得られた結果を一般化するには限界があるといえるだろう。

3) レベル3冊子の活用状況

実証授業を行う前に、当該中学校1年生の保健体育の指導案を共有いただき、授業で扱っている内容を確認したところ、レベル2だけでなく、レベル2別冊、レベル3に渡っていたため、冊子を3冊配布するという形となった。

生命誕生、妊娠の仕組みでレベル3、10ページを使用した教員が3名であった。SOGIEの話をする時にまなブックレベル2裏表紙、レベル3、7ページを参照した教員が1名であった。中学1年生の授業で扱うページのみを使用していた。教員により、使用していたページは異なっていたため、今後は、生徒の状況や学校の指導内容に応じて、1ページづつ使用することも想定しておく必要がある。

4) まなブックをみて、以前の授業と伝え方を変更した点があるかどうか、もしあるということであれば、どの部分か。

「今までは、身体つきが変わってきたよね、みたいな感じで、2ページの内容から、入ったので、1ページから、今回単元として性はグラデーション、いわゆる性について学ぶけど、っていうので、1ページ目のところのあたりは1回触れてから、自分たちの身体のことを考えてみてもとかっていう話で入ってきたので、ここは導入としてはとても入りやすかったと思う。(E 教員)」、「レベル2の最初の性はグラデーションというところから、入った。(A 教員)」、「性はグラデーションのところを触れて、これで1時間使ってしまった。(D 教員)」とのことから、性はグラデーション、性同一性、性的指向、ジェンダーについて導入として触れてから心身の二次性徴についての内容を話すということが変更点であり、性のグラデーションから始めることは導入として入りやすかったとの感想が聞かれた。性別違和は、ほとんどの症例で思春期以前に感じていること、思春期は精神的に不安定な時期であるとともに、二次性徴のため、性別違和感は強く、身体の急速な変化に焦燥感をもちやすい時期である⁵⁾ことから、まなブックレベル2の構成として、研究班内での議論の結果、二次性徴の具体的な変化の前に、性はグラデーションについての内容を入れることとしていた。また、「今回心の変化という、身体も変化するけれど心も変化するっていうので、では、どんな感じで思春期にもやもや加減があるのかなというのを、みんなでシェアするような時間を作った。去年まで全然やっていなかったんで、今回はまなブックの4ページがあつて、とても良かったなと思った。(E 教員)」と、身体的な変化だけでなく、精神的な変化について、ディスカッション、共有する場となっていた。さらに、「まなブックレベル2の3ページから、身体の変化のところ、二次性徴の身体の変化などについて、声変わりをする、体毛が濃くなること、きっちり男女で分けて、身体の変化を今までやっていたが、まなブックの3ページには共通の項目として、声変わりや毛が生えるという記載があつたので、まなブックに合わせて授業をした。(B 教員)」「二次性徴の男女の変化を、男性は〇〇女性は〇〇と、分けて言っていたので、共通の事が多いというような、言い方を変えた。(C 教員)」と、これまでは、二次性徴における男女の違いをクローズアップして伝えていたが、まなブックを使用する

ことにより「男女で共通のことも多い」というように、伝え方にも変化がみられていた。その他、レベル2の11ページのところのPMSのところは全然授業で触れていなかったの、そういうところも授業で話題にできたのは良かったのかなと思った。(A 教員)」、「レベル3の妊娠の仕組みのところ、不妊治療の人数が今は13人に1人と書いてあって、(中略)こういう具体的な新しい数字がわかるのは、とっても有難かった。おそらくクラスの中にも最近はいらと思うので、ここが書いてあったり、最近の数字である事が嬉しかった。(C 教員)」といった感想が聞かれた。

5) まなブックレベル4は先生方が授業を行うにあたり、新しい知見を得ることができると思えますか？また、今後、レベル1~3を使用して授業を行う先生方への資料として、使用できると思うか？レベル4は教員用の資料として使用できるかどうか？

「結構私も知らない情報があったので、これは本当に性教育を熱心に行っている一部の私立高校であれば、すごく活用できるのかなというところがあるし、性教育を深く扱っていないところにとっていくと、ちょっと難しいのかなというのが率直な感想である。(E 教員)」、「私自身聞いたことのない、知識がなくて、知らなかった言葉とかがあるので、そういう意味ではとても勉強になるなという感じはしている。あとは、性暴力の被害にあった時期とか、加害者との関係とか、データの的なものですかね、そういうものも、資料に載っているの、すごく扱いやすいかなという印象はある。(B 教員)」、「レベル4はすごく詳しく載っていて、おもしろいと思った。やはりこれくらい情報量があったりすると、色々ここから発展も出来るでしょうし、やはり生徒だけじゃなく、教員である自分も勉強になるなという感じがするので、おそらく学齢によっての知識量の差はあると思うが、非常に興味深く読ませて頂いた。うちの授業でやれるかとなると、うちの高校一年生の性教育の部分に入ってしまうところが多いので、なかなか難しいとは思いますが、まあ非常に良い冊子だと思った。(D 教員)」、とのことから、レベル4は、保健体育教員であっても、知らなかった最新の情報や内容が盛り込まれており、勉強になったという意見がみられた。その一方で、性教育を熱心に行っている私立高校でなければ、扱うことが困難なのでは、という意見も見られた。一方で、「私は是非あったらいいなと思っていて、どこ

まで先生方が教えられるか、中学生にどこまで伝えるかは別として、**国際セクシュアリティガイドランスの原本を読む時間や労力を考えると、このまなブックが、カラーでレベル4まで手元にあったら、18歳までにここまで知っていて欲しいという内容がかなりきゅっと詰まっているものなので、それが手元にあると、安心して授業が出来ると思っている。**(中略) ガイダンスとして教科書的なものがあたら、レベル2を教える先生達にもレベル4はあったらいいと思っている。(中略) 今回私たちは割と授業時間数を割いて、みっちり授業をしているのですが、おそらく、公立でそういう時間が割けないところでも、このまなブックを配るだけでも、生徒のみんなが目を通したり、ちょっと気になるときに授業でやっていなくても、自分で参照できるというのは、すごく、有意義だと思うので、是非公立にも全国の学校にも配られたら良いと思う。(C 教員)」といった肯定的な意見もみられた。レベル4について、使用にあたっては、手引き書等を作成する必要性について、今後検討していく必要がある。

6) Google Formでの同意書提出およびアンケート回答の問題点

Google Formでの同意書提出やアンケート回答について、タブレットを持参しない、学校のWi-Fi環境の問題、QRコードを読み込んで入力していくという作業は不慣れであった、中学1年生の準備性として、紙の方がデータを回収しやすかったのではないかと、教員からの意見がみられた。次年度は、高校1年生、3年生、公立小中学校で実施予定であるため、紙での配布・回収等、同意書、アンケートの方法について実施校と十分に相談し、実施していく必要がある。

E. 結論

令和4年度は、国際セクシュアリティ教育ガイドランスに基づく関連教材“まなブック”を用いた包括的性教育プログラム導入の効果と課題の検討を行った。第一段階として、レベル2の教材を、私立中高一貫女子校中学1年生に対して実施した。当該中学保健体育科の教諭が作成した指導案をもとに保健体育の授業において、まなブックレベル2の教材を用いて授業を行った。その結果、独自に作成した知識得点は、授業前と授業後、授業後と授業終了後2か月後、授業前と授業終了後2か月後のいずれの時点においても、有意に得点が上昇していた。CCHL得点は、授業前と授業後、授業前と授業終了後2か月後の時点において、有意に得点が上昇して

いた。授業後と授業終了後 2 か月後では有意な得点の変化はみられなかった。RSES 得点は、授業前と授業後、授業後と授業終了後 2 か月後、授業前と授業終了後 2 か月後のいずれの時点においても、平均値は上昇したが、有意な得点の変化はみられなかった。

まなブックを使用して授業を行った中学 1 年の授業を担当した保健体育科教諭 5 名に対し、グループインタビューを行った結果、教員の性差による異なる感想、中高一貫女子校で実施したことによる特殊性により一般化に限界があるものの、まなブックを使用したことにより、性のグラデーションを導入で取り入れる、二次性徴による心の変化について生徒とディスカッションを行う機会が得られており、まなブック使用前とは異なる授業展開も行われていた。レベル 4 については、保健体育教員の新しい知識が得られ、勉強になった、という意見が聞かれ、性教育を熱心に行っている一部の私立高校であれば、すぐ活用できると評価された一方で、性教育を深く扱っていない学校においては、うまく活用できない可能性も示唆された。今後、レベル 4 の使用にあたっては、手引書を作成する必要性について検討する必要がある。

今回、実証授業の対象となった中高一貫女子中学校の校是校訓が、こころの健康、からだの健康であった。そのため、作成したまなブックを使用し、日本においてガイダンスに基づいた包括的性教育を実践し、その効果や今後の課題について明らかにするという本研究の目的への理解が得られ、保健体育科の先生方の全面的な協力を得ることができた。

次年度は、レベル 2.3 について、公立小・中学校で実証授業を、引き続き私立中高一貫女子校でレベル 3.4 の教材を用いた実証授業を行う予定である。

F. 健康危険情報

なし

謝辞

本研究の実証授業校長先生をはじめ、保健体育科の先生方、研究に参加いただいた生徒の皆様には、心より感謝申し上げます。

G. 研究発表

1. 論文発表

1) 西岡笑子, 三上由美子, 飯島佐知子, 横山和仁. 大学における女性の健康支援状況(査読あり). 防衛医科大学校雑誌 47(1), 78-89, 2022.

2) 西岡笑子. 妊娠・出産におけるヘルスリテラシー保健の科学 64(4), 253-258, 2022.

2. 学会発表

- 1) 西岡笑子, 三上由美子. 働く女性のウィメンズヘルスリテラシー啓発のための教育プログラムの実施. 第 34 回日本女性心身医学会, 27(1), 88, 2022.
- 2) 西岡笑子, 三上由美子, 飯島佐知子, 横山和仁. 女子大学生のウィメンズヘルスリテラシー啓発のための教育プログラムの実施. 第 87 回日本健康学会総会, 88, 74-75, 2022.
- 3) 高橋幸子, 西岡笑子, 荒田尚子. 日本の性教育～国際セクシュアリティ教育ガイダンスに基づいた包括的性教育を導入するための関係者へのインタビュー調査. 思春期学, 41(1), 181-182, 2022.
- 4) 高橋幸子自分で気づく「わたしのからだはわたしのもの」～大学生の HPV ワクチン啓発活動を通して～. 思春期学, 41(1), 131-135, 2022.

3. 書籍

- 1) 高橋幸子マンガでわかる! 28 歳からのおとめのカラダ大全 今更聞けない避妊・妊娠・妊活・病気・SEX の超キホン (著作) KADOKAWA
- 2) もう、子どもじゃない? はじめての悩み、はじめての恋 福田裕子著 (高橋監修) 角川つばさ文庫
- 3) ラジオ保健室 10 代の性悩み相談 BOOK (出演) NHK 出版
- 4) 365 日期限のいいカラダでいたい 及川夕子著 (高橋監修) Discovery21
- 5) 思春期の子どもたちに「性の学び」を届けたい! 実践包括的性教育 樋上典子ら著 (高橋監修) エイデル出版
- 6) 性の絵本 せいってなーんだ たきれい著 KADOKAWA (高橋監修)
- 7) はたらく細胞 Lady 10 代女子が知っておきたい性の新知識 及川夕子著 (高橋監修)
- 8) Q&A で学ぶジェネラリストのための女性診療 BASIC 編著井上真智子 (高橋分担執筆) 金芳堂
- 9) ステップアップ思春期の診かた 中山明子ら編著 (高橋分担執筆) 金芳堂

4. その他

1) 西岡笑子. 産経新聞 働く女性の悩みを気軽に フェムトークコミュニティ web サイトオープン. 朝刊 1 面と 11 面 2022 年 8 月 5 日

- (金)
- 2) 西岡笑子. 産経新聞 「月経で婦人科」 2 割未満. 朝刊 19 面, 2022 年 11 月 25 日 (金)
- 3) 西岡笑子. 産経新聞 「更年期」匿名で話せる安心感. 朝刊 29 面, 2022 年 12 月 16 日 (金)
- 4) 西岡笑子. 産経新聞 「妊活」仕事との両立 困難浮き彫り, 朝刊 18 面, 2023 年 1 月 20 日 (金).
- 5) 西岡笑子. 中日新聞 子育ておむつ替え見ないで 祖父母世代 認識変えよう. 朝刊 18 面, 2023 年 2 月 3 日 (金).
- 6) 西岡笑子. 東京新聞 子育ておむつ替え見ないでほしい 大切な概念 プライベートゾーン. 朝刊 8 面. 2023 年 2 月 10 日 (金).
- 7) 西岡笑子. 産経新聞 国際女性デー フェムトークコミュニティ リアルな声から課題見える. 朝刊 14-15 面, 2023 年 3 月 8 日 (水)
- 8) 西岡笑子. ミニ冊子「からだところの話」 B6 版 12 ページ, NHK, 監修.

Comprehensive Sex Education. Journal of Adolescent Health. 68,13-27,2021.

- 7) 西岡笑子. 学術研究からの少子化対策 日本衛生学会からの提言に向けて 思春期性教育、妊孕性認識の研究動向と性と生殖の健康教育に基づいたライフプランニングの可能性. 日本衛生学雑誌, 73(2), 185-199,2018.
- 8) 堀内比佐子. 教師が行う性教育の現状と責任～学習指導要領の解説書と教科書の内容をふまえて～. 思春期学, 31(1),47-52,2013.
- 9) 石川ひろの. ヘルスコミュニケーションとヘルスリテラシー. 保健医療社会学論集, 22(2),16-21,2011.
- 10) 風間みえ, 藤川君江. 中学生における生命と性の健康教育の効果. 日本医療科学大学研究紀要, 10, 97-103, 2016.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

【引用文献】

- 1) UNESCO 編 浅井春夫, 良香織, 田代美江子, 福田和子, 渡辺大輔 訳【改訂版】国際セクシュアリティ教育ガイダンス 科学的根拠に基づいたアプローチ, 明石書店, 2020.
- 2) 文部科学省平成 29・30 年改訂 学習指導要領、解説等
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm (参照日: 2022 年 4 月 26 日)
- 3) 中学生・高校生のために今こそ必要な女性の健康教育
https://www.pharma.bayer.jp/sites/byl_bayer_co_jp/files/jyoseinokenkokyouiku_rev.pdf
 (参照日: 2023 年 5 月 1 日)
- 4) 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説保健体育編
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_008.pdf
 (参照日: 2023 年 5 月 1 日)
- 5) 中塚幹也, 江見弥生. 思春期の性同一性障害事例の社会的、精神的、身体的問題点と医学的介入の可能性についての検討. 母性衛生, 45(2),278-284,2004.
- 6) Eva S Goldfarb, Lisa D Lieberman. Three Decades of Research: The Case for